

## 3年「柏樹タイム」

### I. 学習の経緯

#### 1. 3年「柏樹タイム」のねらい

この学習は、教科の枠を越えて、生徒たちが自らの興味・関心を基に学習課題（＝テーマ）を設定し、自らの方法で追求していくことで、学習の仕方や、学習することの意味、その価値を見出していくこと（＝自己決定力）ができるようになること、また、追求の過程で得られるさまざまな情報を取捨選択・活用し、発信することができるようになること（情報活用の実践力）をねらいとする。

#### 2. 「金沢」に関連した課題追求型学習にした理由

この学習を計画するに当たり、生徒たちが設定する学習課題を、主として次のような理由により「金沢」に関連するもので行なうことにした。

- (1) 資料収集が容易である。
- (2) フィールドワーク（＝現地学習）が可能である。
- (3) 教師側の支援体制がとりやすい。

#### 3. 本年度の活動基本方針

- (1) 1年時に実施したスキル学習の一つとしての「コンピュータの基礎教育」、2年時で実施した修学旅行を通しての「課題追求学習」をベースとする。
- (2) 基本的な活動方法は、過去2年間の3年生の活動方法を踏襲する。その上で、今年度は、できるだけ多くフィールドワーク（＝現地学習）を盛り込んだ調査に取り組み、文献やインターネットだけの調査に終わらないようにする。その際、生徒の安全上の問題に対応するため、保護者に連絡を取り保護者の許可のもとフィールドワークを実施する。
- (3) 保護者に情報提供の協力を依頼する。生徒がテーマを決定したあと、そのテーマを保護者に公開し、調査に関して協力可能な保護者を募る。また、卒業生の登録者の活用もおこなう。
- (4) 各担当教師のもと、「ゼミ」形式の中間発表を実施し、お互いの質問や意見の交換をおこない、より充実した内容に近づける。
- (5) テーマの設定の理由、活動計画書、下書きレポート、まとめ用紙などを同一版の用紙（A4版）に統一し、生徒が自分の活動の歩みを振り返ることができるようにする。そのために、ファイルを提供し一括管理できるようにする。また、できるだけ多くの資料収集・保管できるようにクリアファイルも配付する。
- (6) 以下のような、まとめの方向を例示することで、単なる調べ活動に終わらないように支援する。
  - ①収集・比較…「同じものを集める」「複数の対象を比較する」
  - ②見学・体験…「独自の文化の見学」「訪問先での体験」
  - ③表現・創作…「金沢をテーマにした作品創造」
  - ④紹介・PR…「金沢について外部に紹介」

⑤主張・提言…「金沢の今、未来の金沢を提言」

(7) 発表の方法は、まず、全員がレポート形式で成果をまとめる。その上で、自分の学習内容に応じて、OHP・実物投影機・テープレコーダ・ビデオ・模造紙・パソコンなどの機器を選択・使用し、班別発表会を行なう。

#### 4. 課題学習をスタートするための働きかけ

過去2年間の3年生も、同様の課題学習を行なったが、どのような課題を設定するか、その追求方法を考えるのにかなりの困難を伴った。初年度は、金沢の「生活・産業」「文化・歴史」「自然・環境」の大まかな方向を示すことで課題選びの一助とした。昨年度は、金沢と生徒の興味関心との接点を探るためのイメージマップ作りをおこなった。

今年度は、課題設定に至るまでに、十分な時間と情報交換を行なえるように留意し、次のような働きかけを行なった。

##### (1) オリエンテーション〔保護者参観授業〕

「柏樹タイム」を始めるにあたり、生徒全員を「柏樹ホール」に集めて、以下に示す6つの基本活動について説明した。

- ①課題（＝テーマ）探し
- ②文献・インターネット（WWWページ、電子メール）・電話による調査・取材
- ③校外・現地調査（＝フィールドワーク）（全員1回の現地調査は必須）
- ④保護者・卒業生の方からの情報収集
- ⑤班別報告会・討論会（数回）
- ⑥発表会（班別・全体）

また、「柏樹タイム」のゴールを知るために、過去2年間の3年生が残っていたレポートや発表会の模様を撮影したビデオを紹介した。

さらに、「柏樹タイム」の活動、特に校外・現地調査についての理解と、課題に関する情報提供や協力をお願いするために、このオリエンテーションを保護者向け参観授業とした。（写真1）



写真1

##### (2) 課題選定のための情報交換

課題を選定する前に、生徒の実態を次のようにとらえた。

- ・生徒は、「金沢」に暮らしていても、意外と「金沢」のことを知らない。「金沢」に対するイメージが乏しいため、昨年度の取り組みのようなイメージマップ作りでは、あまり効果が期待できない。
- ・生徒の興味・関心の多くは、芸能界のこと・音楽のこと・異性のこと・受験のことなど個人的なことが中心である。

この実態を考慮しつつ、次のようなアプローチで「金沢」に関する課題を探すように支援した。

- ①まず、テーマの候補をできるだけ多く考える。テーマの最終決定は先でよい。

②すでにテーマがほぼ決定している人も、テーマ候補を複数考える。

③テーマ候補を考える際、以下の点に気をつける。

- ・自分のテーマが「金沢」とどのように結びついているかを説明できる。
- ・フィールドワークが可能なテーマか。
- ・フィールドワークが可能でも、次のような場所は選べない。

ア. 中学生の立入り禁止の場所

イ. 大金のかかる場所

ウ. 保護者が許可しない場所

④自分の興味・関心がはっきりしない人

は、「イミダス」「知恵蔵」「現代用語の基礎知識」「タウンページ」などの索引を参考にして、課題候補を考える。

(写真2)

⑤テーマは最終的に自分で決定するが、自分の考えた課題の候補が、これからの研究でどのように展開できるかを4人の班（出席番号順、男女別）で、意見の交換をする。



写真2

⑥課題候補（複数）とその展開の可能性を短冊に書き、模造紙に貼り付けて、廊下に掲示する。

(次回の「柏樹タイム」まで掲示)

(写真3, 4)

⑦次回、「柏樹タイム」までに廊下に掲示してある課題候補を見て、自分の課題選定の参考にする。

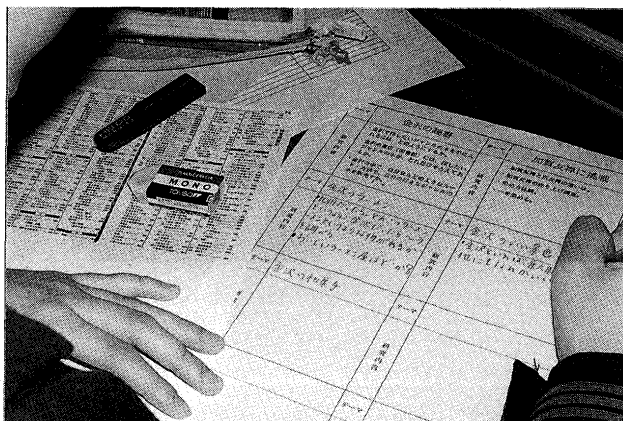


写真3

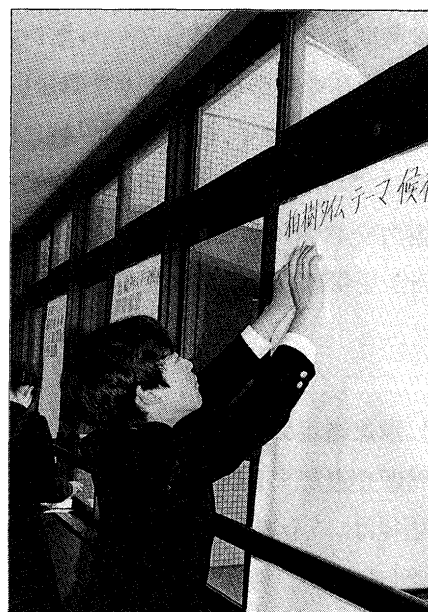


写真4

### (3) 班分け

- ①よりきめ細かな支援をするために学年150名の生徒を8班に分け、学年担当教諭8名が、1班ずつ支援する。1つの班は、男女各10名程度。
- ②必要に応じて、複数の教師が支援する。

班分けにあたって、同じようなテーマの生徒を集めるという案とクラスごとに機械的に分ける案があった。長所として、前者の方法では、生徒同士の話し合いから内容が深まることが考えられ、後者の方法では、さまざまな課題を抱えた生徒がいることで、課題選定の理由発表・中間発表（後述）のとき、異なる視点からの多様な意見が出やすいと考えられた。短所として、前者の方法では、同じ課題であるから他の人に頼って活動をする生徒が出ることや、班によって人数にアンバランスが出ることが考えられた。後者の方法では、生徒同士の情報の交換ができないことが考えられた。今年度は、後者の方法を選択した。

### (4) 課題選定の理由を発表したり、意見交換をしたりする場の設定

課題学習は、課題選定の理由や調査内容・調査方法がしっかりしていれば順調なスタートが切れるという考えから、生徒同士が互いに課題選定の理由や調査内容を知らせ、意見交換を行なう機会を設けた。選定理由があいまいであったり、調査内容が不十分に思われる場合は、互いに建設的な意見を出し合い、これからの活動の参考となるようにした。その際、教師も、課題選定からまとめの方向性まで、生徒個々の興味・関心に応じて、カウンセリング・アドバイスなどの支援を行なった。

### (5) テーマ例

上記のような活動を通して生徒が最終的に選定したテーマは、以下のようなものである。

前田利家と金沢城	伝統野菜	姉妹都市との交流	警察官の仕事
バス	偉人（歴史上の人物）	治安について	ふらっとバス
近江町	コンビニ	スーパーマーケット	金沢城の利用
兼六園	福祉の状態	コンビニとスーパー	和菓子の歴史
坂	浄土真宗のお寺	おみやげと郷土料理	中央分離帯の花
町物語	電車	焼き物	観光地
お菓子	バスについて	ゴミの行方	住宅事情 ～私が家を建てるまで～
鉄道	カラス		

## 5. 学習環境

- (1) テーマ決定後の第5回から第11回の調査活動期間中、全生徒を1階の「柏樹ホール」に集め活動の拠点とした。「柏樹ホール」には、過去2年間集めたものと今年度新たに購入した「金沢」に関する文献・資料を専用書架にそろえ、ほとんどの生徒が図書館に移動することなく閲覧することができるようにした。また、コンピュータ教室や図書室を利用希望の生徒は、担当教師の許可の下、ホールから各部屋へ移動した。教師も「柏樹ホール」にいて生徒を支援するが、コンピュータ教室と図書室へは各回交替で赴き、そこでの支援にあたった。
- (2) 柏樹ホールに「柏樹タイム」専用コピー機を設置し、文献からの複写の利便を図った。
- (3) コンピュータ教室では、インターネットに接続した40台のコンピュータでのWWWページの閲覧および必要なページの印刷を行なわせた。
- (4) コンピュータ操作に堪能な講師を迎え、コンピュータ教室に常駐してもらうことで生徒の質問やトラブルの解決にあたってもらった。

## 6. 保護者、卒業生への支援・協力の依頼

生徒が選ぶ課題が多岐にわたるため、教師の支援だけでは不十分なことが多い。そこで、先に述べたように、保護者や卒業生に情報提供の支援・協力の依頼を行なうことにした。『「総合的な学習の時間」への支援・協力のお願い』というプリントを5月中旬に生徒を通じて保護者に配布した。協力して下さる保護者には、以下の項目を登録していただき、必要なときに連絡を取らせてもらうこととした。

- ①名前
- ②住所
- ③電話・FAX番号
- ④お仕事（得意な分野）
- ⑤電子メールアドレス（お持ちの方）
- ⑥ホームページのURL（お持ちの方）
- ⑦取材方法（複数選択可：手紙、電話、訪問、電子メール）

卒業生に対しては、本校創立50周年記念の際に支援・協力依頼の案内状を配布したり、ホームページ上で宣伝したりすることで支援・協力を募った。

## 7. フィールドワーク（＝現地学習）の取り組み

「金沢」に関連した学習課題に取り組む理由に、フィールドワークが可能であることを2－（2）に挙げた。生徒の学習を深めさせるためには、フィールドワークの回数や時間の保障が必要であるが、時間的な制約、引率に関する問題、生徒の安全上の問題などがあり、安易にはスタートできないと考えた。そこで、次のような点を考慮してフィールドワークに取り組んだ。

### （1）フィールドワーク計画書の作成

フィールドワークをする目的意識をしっかり持ち、訪問先で効率よく内容のある調査活動ができるように、フィールドワーク計画書の作成に生徒は取り組んだ。計画書は、担当教師とコミュニケーションを取りながら、時には、書き直しや付け足しを繰り返して完成した。計画書には、以下のことを記載した。

- ①訪問希望先（市役所などはなるべく〇〇課まで）
- ②取材日時
- ③交通手段（【例】利用路線バス、自転車、徒歩）
- ④所在地（住所、電話番号など）
- ⑤訪問の目的
- ⑥訪ねる相手（取材がインタビューによる場合）
- ⑦尋ねる内容（具体的に、箇条書きで）

### （2）保護者によるフィールドワーク計画書の確認

生徒の学習課題は多岐にわたっているのも、必然的に、フィールドワークの訪問先も様々である。教師が一人ひとりの生徒を引率することは不可能である。そこで、先にも述べたように、生徒の安全上の問題に対応するため、保護者にフィールドワーク計画書を見てもらうことで、教師と保護者双方の許可のもとフィールドワークを実施した。計画書で疑問に思われる点がある場合は、教師と保護者が連絡を取り合い、可能な限りフィールドワークを実行できるように努めた。

(3) 時間, 引率, および, 引率できない生徒への対応

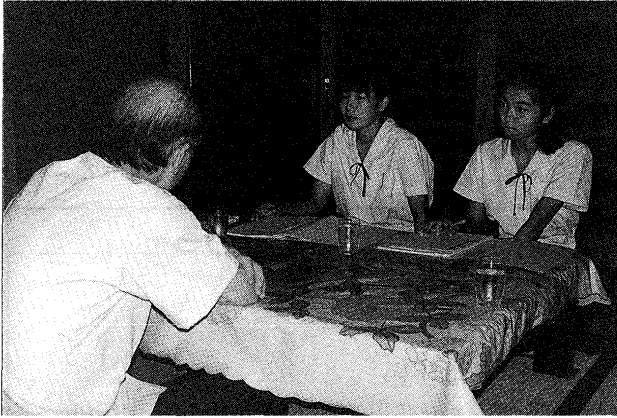
フィールドワークは, 全部で4回実施した。活動時間は, 学校をおよそ13:35に出発して, 遅くとも16:00には終了することとした。引率や引率できない生徒への対応は, フィールドワークに出かける生徒数に合わせて以下の表のようにした。

第1回フィールドワークの日(6月28日)
①校内での文献・インターネット調査100人。教師6人で対応。 ②フィールドワーク参加50人, フィールドワークは, 13:35~16:00まで。 ③金沢港 引率教員1名。フィールドワーク終了後, バス停まで引率。 ④市役所前チェックポイント 教員1名配置。市役所付近でフィールドワークを実施した生徒は, 終了後, 市役所前でチェックを受け, 帰宅。 ⑤上記③, ④以外のフィールドワーク参加者は, 調査終了後, 学校へ終了報告の電話をして帰宅。15:15までは, 事務職員に電話の応対をしてもらい, それ以降は, 教師が対応。
第2回フィールドワークの日(7月14日)
①フィールドワーク150人全員参加。金沢市中文連主催「観能教室」(午前中)のあと, 12:00~16:00まで調査活動。 ②金沢港 引率教員1名。フィールドワーク終了後, バス停まで引率。 ③市役所前チェックポイント 教員2名配置。市役所付近でフィールドワークを実施した生徒は, 終了後, 市役所前でチェックを受け, 帰宅。 ④金沢市立泉野図書館, 金沢市立玉川図書館, それぞれに教員1名配置。 ⑤上記②, ③, ④以外のフィールドワーク参加者は, 調査終了後, 学校へ終了報告の電話をして帰宅。2名の教師が対応。
第3回フィールドワークの日(9月20日)
①校内での文献・インターネット調査98人。教師6人対応。 ②フィールドワーク参加52人。フィールドワークは, 13:35~18:00まで。 ③金沢港 引率教員1名、フィールドワーク終了後, バス停まで引率。 ④市役所前チェックポイント 教員1名配置。市役所付近でフィールドワークを実施した生徒は, 終了後, 市役所前でチェックを受け, 帰宅。 ⑤上記③, ④以外のフィールドワーク参加者は, 調査終了後, 学校へ終了報告の電話をして帰宅。
第4回フィールドワークの日(10月4日)
①校内での文献・インターネット調査115人。教師6人で対応。 ②フィールドワーク参加35人。フィールドワークは, 13:35~16:00まで。 ③フィールドワーク参加者は, 調査終了後, 学校へ終了報告の電話をして帰宅。

(4) 取材予約に関する対応

フィールドワークの計画書を作成する段階で, 必要があれば, 生徒は, 現地に取材予約を入れた。市役所などの公的機関については生徒だけの予約で活動を進めたが, ホテル, コンビニエンスストアなどの民間の企業などへは, 教師から, 本校の「総合的な学習」の趣旨と取り組みとを合わせて取材の許可・協力をお願いすることにした。

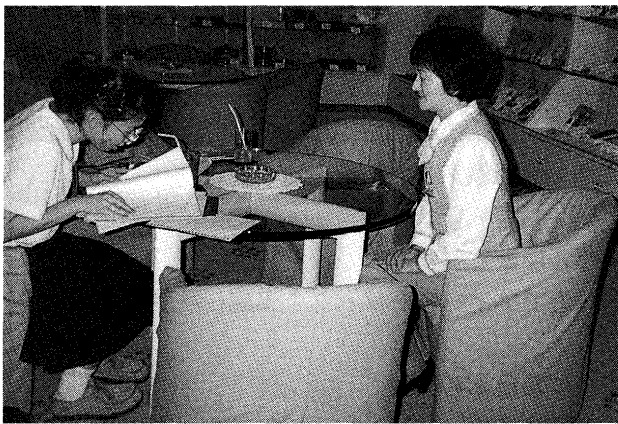
## 《フィールドワークの取材風景》



老舗蕎麦屋にて



図書館にて



結婚式場にて



放送局にて

## 8. プレゼンテーションソフト講習会（夏季休業中開催）について

3－（7）で述べたように、生徒は研究成果を班別に発表するが、その際に、コンピュータを利用した発表をしようと希望した生徒に対して、夏季休業中にプレゼンテーションソフト講習会を2日間に分けて開催した。希望者は、15人で、2日間のうちいずれかの日を選択して講習した。

講習内容は、以下のとおりである。

- ①プレゼンテーションソフトの概要説明
- ②プレゼンテーションソフトを使った発表例（『金沢のホームページ』：教師作成）
- ③プレゼンテーションソフトの体験
- ④質疑応答

## 9. 中間発表の場

過去2年間の本校「柏樹タイム」の研究からわかったことは、1つの課題について長期間調べるという活動は、生徒たちにとってかなり大変なことで、単調な活動はともすれば中だるみしがちである。また、研究調査していくうちに、研究に行き詰まったり、研究の方向を修正しなければならない生徒が多々あるということであった。

そこで、夏休みが明けた9月に中間発表会を開催し、今まで調査してきたことを中間発表レポートの形

でまとめ口頭発表を行ない、仲間や教師からアドバイスをもらう活動をした。中間発表会は、各班ごとに行なった。その結果、他の生徒や教師からのコメントやアドバイスを参考に、研究内容の付け足しを行なったり、フィールドワークの場所を決めたりした生徒もいた。また、他の生徒の研究の進行状況や内容の充実度に驚き、良い刺激を受けた生徒も多くいた。(写真5)

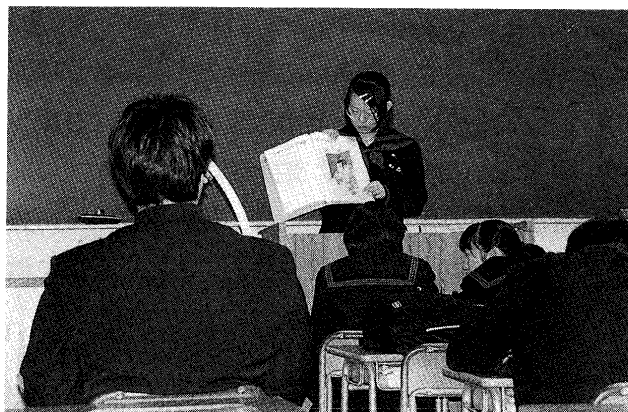


写真5

## 10. 班別最終発表へ向けて

第12回の活動からは本格的なまとめ作業に入ったが、柏樹ホールを拠点に行なってきた調査活動を、8つの教室（普通教室4つ・特別教室4つ）を使用しての、各班ごとの活動にした。また、コンピュータを使用しての発表を考えている生徒は、コンピュータ教室で活動をした。班別発表会に向けて、教師からのきめ細かな支援を行なえる場になった。

## 11. 班別発表会

第16回～第18回の3回の「柏樹タイム」を班別発表会にあてた。司会進行は、会長・副会長などのリーダーが行ない、発表と質疑応答、意見交換を行なった。聞き手側の生徒は、ただ聞くのではなく、「発表会評価表」を用いて研究内容の評価と感想を書き留めた。

8つの教室に分けての発表は、落ち着いた雰囲気で行なうことができて良かった反面、発表の際に必要な教育機器が不足していて不便な面もあった。(写真6)

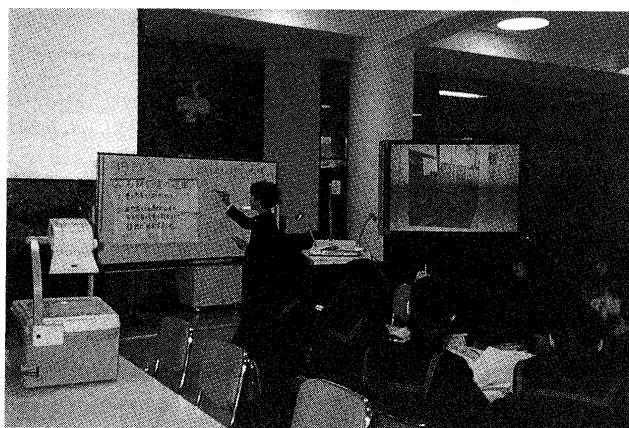


写真6

## 12. 全体発表会

班別発表会後、本校の研究発表会を兼ねた、全体発表会を開いた。クラスの代表者が、3年生全員を前にして、自分のまとめてきた資料や考えを、様々な教育機器を用いて発表し、その発表のあとで、生徒同士が意見交換や質疑応答を行う活動を行なった。

### (1) 本時のねらい

- ・各班の代表者が、聞き手にわかりやすく、自分の研究成果を発表できる。
- ・共感的な態度で、発表者の研究内容を聞き、意見・感想を言うことができる。
- ・代表者の発表やそれに対する質疑応答・感想を聞くことで、自分の考えや取り組みをさらに広げることができる。

### (2) 指導にあたって

生徒一人ひとりの問題意識を大切にしながら、自由な追求方法を保障し、教科という枠にとらわれるこ



となく、学習や活動に対する大きな喜びを実感できるように、これまで支援してきた。

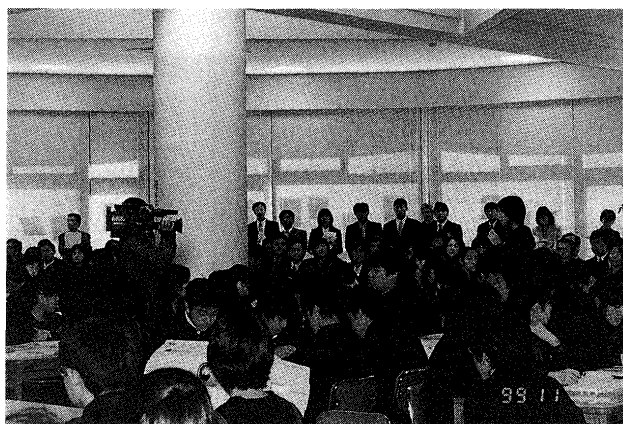
各班の代表者の発表にあたって、どのような発表態度をとれば、聞き手の理解を得やすいかを事前に指導し、落ち着いて発表の場に臨めるように支援していきたい。また、教育機器の設置や使用方法に関して戸惑うことのないように支援していきたい。

聞き手側の生徒については、発表を聞いて、良かった点を中心に感想を述べるように指導したい。また、質問や意見も、発表者が自分の課題に将来に渡ってかかわっていくときに、役に立つような建設的なものになるように指導したい。

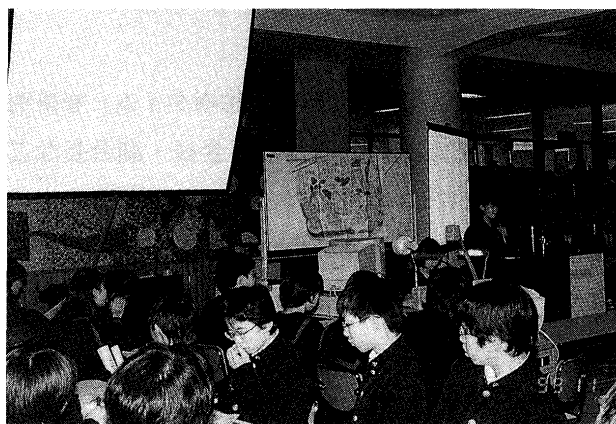
#### 《発表者一覧》

組	氏名	テーマ
1 組	A 女	金沢の観光地
2 組	B 女	金沢の金箔
3 組	C 女	金沢の国際交流
4 組	D 男	金沢の観光設備

#### 《全体発表会の風景》



質問中の生徒



発表中の生徒

全体発表会の司会進行も、生徒の代表が担当する形でおこなった。司会の生徒は、会がスムーズに進行するにはどうしたらよいか、また、どのようにしたら建設的な意見が生徒たちの間からでてくるかなど、あらかじめ司会用原稿を前日までに練り上げて作成した。

全体発表会は、本校の研究発表会を兼ねていたので、沢山の参加者があった。発表をした4人の生徒は多少緊張していたが、制限時間の中でわかりやすく上手に発表できた。中には、班別発表会での反省を生かし、絵や図を新たに作成し、工夫を更に凝らした生徒もいた。

質疑応答のほうは、最初、司会から指名されるまで発言がなかったが、後半のほうでは、雰囲気慣れたのか自主的な発言が見られた。

### 13. 年間活動計画

日付	回数	活動内容
4/26	オリエンテーション	1年間の見通しと先輩の活動を知る
5/10	第1回	テーマ探し
5/17	第2回	テーマ探し，テーマ設定の理由・計画書を提出
5/24	第3回	テーマ探し，テーマ設定の理由・計画書を提出
6/7	第4回	仮テーマのカウンセリング・中間発表（班別）
6/14	第5回	文献・インターネット調査
6/21	第6回	文献・インターネット調査，現地訪問希望調査
6/28	第7回	第1回校外調査，現地調査，文献・インターネット調査
7/5	第8回	文献・インターネット調査，現地訪問調査計画書作成提出
7/14	午後（観能教室後）	第2回校外調査，現地調査（全員校外活動）
夏休み		パワーポイント説明会（2日）
		文献調査，現地調査（各自）
9/6	第9回	中間発表レポート作成，まとめ方の確認（班別）
9/13	第10回	調べ作業中間発表（班別），現地訪問希望調査
9/20	第11回	第3回校外調査，現地調査，まとめ作業
9/27	第12回	まとめ作業，現地訪問希望調査
10/4	第13回	第4回校外調査，現地調査，まとめ作業
秋休み		まとめ作業，現地調査（各自）
10/18	第14回	最終締め切り
10/25	第15回	予備日
11/1	第16回	発表会（班別）
11/8	第17回	発表会（班別）
11/15	第18回	発表会（班別）
11/19	研究発表会	発表会（全体発表会）

### 14. データベース化（CD-ROM作成）

生徒は自分のレポートをA4のファイルにまとめ、本校の文化発表月間の11月19・20日に他学年の生徒および保護者向けに展示発表した。しかしながら、この発表期間は十分に閲覧することが出来ない。また、このファイルは卒業時に生徒に返却するので学校には残らない。本校が、総合的な学習を「金沢」というテーマの下で継続するとして、長時間にわたって情報収集や調査活動をしてきた先輩の成果を、在校生がいつでも閲覧、参照できれば、より発展的な学習ができるのではないかと考えた。

そこで、生徒に、テーマ設定の理由・研究の方法・研究の概要・参考文献・訪問先などを、B4一枚にまとめさせ、それをスキャナーで読み込みPDFファイルとして校内サーバーに保存した。また、そのPDFファイルをCD-ROM化して生徒に配布すると同時に、図書室に保管した。

### 15. 3年「柏樹タイム」をふりかえって（生徒アンケート集計と考察）

上で述べてきたような活動を3年生147名（欠席3名）にふりかえってもらった。

## 〈テーマについて〉

(1) テーマ決定の参考にしたのは次のどれですか？（複数回答可）

a. 先生方の話	15	d. 設定理由報告会（質疑応答）	8
b. 先輩の例	8	e. 家族の話	20
c. 友達の例（廊下掲示）	17	f. 自分の興味	123

(2) 自分の興味関心をもとにしたテーマになりましたか？

a. 自分の興味関心のあるテーマになった	89
b. 普通	51
c. 興味の持てないテーマになってしまった	7

(3) 「金沢に関するもの」という条件は、不都合ではなかったですか？

a. 条件があったので決めやすかった	31
b. 条件に関わらず自分の好きなテーマが決められた	45
c. 条件のためにテーマを決めるのに苦労した	49
d. 条件のために自分のやりたいテーマにならなかった	22

(1) と (2) のデータから、生徒は、いろいろな意見や事柄を参考にしながらテーマを決定したことが分かるが、中でも自分の興味ある事象がテーマと深く関わったことが分かる。もちろん、全員の生徒にとって、自分の興味関心がそのままテーマにダイレクトに反映したわけではない。(3) の結果を見ると、「金沢に関するもの」という条件があったため、3分の1の生徒が、自分の興味関心とテーマとの接点を探すのに苦労をしたようであるし、自分のやりたいテーマにならなかった生徒も20人近くいることがわかる。

「金沢」という大テーマは前に述べた3つの理由、すなわち、①資料収集が容易である ②フィールドワーク（＝現地学習）が可能である ③教師側の支援体制がとりやすい、から設定したものであるが、生徒たちの学習意欲を優先的に考慮した場合、大テーマをどんなものに設定したらよいのか、また、大テーマそのものをなくして、自由にテーマを選ばせたらよいのではないかなどが、今後の課題として残った。

(4) テーマを決めるのに何かよい方法があれば書いてください。

- ・自分の興味だけで決める（同意見 23）
- ・地域（金沢）限定はやめる（同意見 5）
- ・現地学習をして楽しいところを選ぶ（同意見 3）
- ・他人に惑わされない（同意見 2）
- ・興味のあることをいくつか出してその中から選ぶ
- ・自分のやりたいものを見つける
- ・やってみたい物をするのが一番。「金沢」と結びつけるのはその次
- ・みんなの意見を聞いて自分が調べたいと思ったことをすればいい
- ・親の意見を聞いてからすすめる
- ・自分の身近なところに目を向ける
- ・先輩のを見せる
- ・なるべく金沢にあったものにする
- ・金沢に関するTV、情報誌の活用

- ・金沢で有名なものを考える
- ・もっと金沢について知ること
- ・「金沢」に限定せず、せめて「石川県」にすればよい
- ・イメージマップ
- ・他のものと比較できるようなもの
- ・外国との比較
- ・はじめから決まっているテーマを選択する
- ・ジャンルをふやす
- ・一人一人がもっと具体的にテーマについて調べ討論する
- ・自分の将来のためになるような調べ学習がよい

#### 〈調査活動について〉

(5) 調査で一番役に立ったものはどれですか？

a. インターネットのホームページ	35
b. 電子メールや手紙	2
c. アンケート	6
d. 文献（学校の図書館、柏樹ホールの本など）	31
e. 文献（校外）→（それはどこですか）	27
f. 電話による取材	5
g. フィールドワーク	74

e の回答…泉野図書館 5，玉川図書館 2，自分の家 2

フィールドワークによる調査が一番役に立ったとする生徒が半数いるが、インターネットや文献の調査だけで課題学習が終わらないようにしたいという教師側のねらいが数値に反映していると思われる。それとは対照的に、1，2年時にインターネットに関連した学習や実践を体験してきたにもかかわらず、ホームページや電子メールが役に立ったという生徒数が想定していたより少なかった。ホームページに関しては、ホームページ上に自分が求めている情報が少なかったとか、または、検索方法を十分熟知できていなかったなどの理由が考えられる。また、電子メールに関しては、メールそのものをあまりだしていないことが理由として考えられる。生徒一人一人に電子メールアカウントを与えてあるが、今後は、日常的に校内でメールを利用できる環境を整え、もっと電子メールに慣れ親しむようにすれば、今回のアンケート結果の数値も上がると思われる。

(6) （保護者や卒業生から情報をもらった人のみ）どのような方法で情報をもらいましたか？

a. 電子メール	1
b. 手紙	5
c. 電話	4
d. フィールドワーク	10

今年度の「柏樹タイム」から保護者や卒業生からの支援を受けることになったが、延べ20名の生徒がコンタクトをとって情報収集をしたことが分かる。保護者や卒業生の支援登録の数は、今年度スタートしたばかりなのでまだ十分とは言えず、登録してあっても生徒の興味関心と合致するものは、まだ数少ない。今後、この支援体制が継続していき登録数が徐々にでも増えていけば、生徒にとって大いに役立つ情報源になると思われる。

(7) (電話や手紙を使った人のみ) 電話のかけ方や手紙での問い合わせ・依頼のしかたのプリントは役に立ちましたか？

a. とても役に立った	20
b. あまり役に立たなかった	5
c. 少し役に立った	22
d. まったく役に立たなかった	8

生徒にとって、友人同士での電話や手紙のやりとりは日常茶飯事であろうが、公的機関や外部の店舗などとの交渉は不慣れと思われる。上の結果を見ると、言葉使いやマナーを学習の一貫として位置づけ、マニュアルを渡したことは良かったと思われる。

(8) 調査の時間は足りましたか？

a. 時間が余った	19
b. ちょうどよかった	64
c. 時間が足りなかった	64

(9) もっとやりたかった活動（今回できなかったものを含む）は次のどれですか？（複数回答可）

a. 文献（校内外の図書館など）	19
b. インターネットのホームページ	53
c. 電子メールや手紙	31
d. 電話による取材	21
e. フィールドワーク	84
f. アンケート	50

(8) の項目で、時間が足りなかったと答えた大きな理由は、フィールドワークや文献調査を重ねるうちに、次々に調査してみたい項目が増えていったことが挙げられる。そのことは、(9) の項目で、もっとやりたかった活動でフィールドワークがトップに挙がっていることから伺える。

〈まとめについて〉

(10) 自分のまとめ方の方向は次のどれですか？

a. 収集・比較	57
b. 見学・体験	26
c. 表現・創作	7
d. 紹介・PR	46
e. 主張・提言	22

無回答 1

課題追求型学習は、ややもすると単なる調べ学習に終わりがちであるということから、上のようなまとめの方向を生徒に意識させながら、今年度の「柏樹タイム」を行ってきたが、アンケート結果を見ると、教師のねらいどおり、生徒は様々な方向で自分の研究をまとめたことがわかる。

(11) まとめ時間は足りましたか？

a. 時間が余った	10
b. ちょうどよかった	64
c. 時間が足りなかった	71

時間が足りなかったと答えた大きな理由は、集めてきた情報が膨大なものになり、まとめの作業にかなりの時間が必要になったことが挙げられる。逆に、テーマによっては、情報があまり手に入らずに、まとめに時間を要さなかった生徒もいたことを考えると、設定すべき時間数は、今後の課題として考えていかなければならない。

(12) まとめで工夫したのはどういうところですか？（例えば、グラフを作った、写真などの資料をつけて見やすくしたなど）

- ・写真を入れた（同意見 16）
- ・絵、表、工程の図、OHP、実物投影機（同意見 12）
- ・パソコンの利用（同意見 10）
- ・グラフを作った（同意見 7）
- ・写真を撮った（同意見 5）
- ・模造紙に書いた（同意見 3）
- ・パンフレットの利用（同意見 3）
- ・図表を利用（同意見 2）
- ・OHPシートにまとめた（同意見 2）
- ・絵の利用（同意見 2）
- ・色を付けて見やすくした（同意見 2）
- ・実物利用
- ・絵や写真を入れた

- ・表を作った
- ・分布図を作った
- ・実物投影機を利用
- ・スクラップブックを使い写真を貼った
- ・コピーの利用
- ・複雑なものを簡略して発表
- ・プリントを作成
- ・声を大きくした
- ・何を中心にまとめるかで苦労した
- ・クイズ
- ・自分の考えや意見を述べた
- ・地図を使つての説明で実際のドライブを想定した説明
- ・まとめのレポートを提出するより、もっとすべきことがあると思う
- ・文字数を減らし見やすくした

プレゼンテーションの方法は、自分の課題学習の結果を提示するのに良いと思われる方法を自己決定させるために、様々な方法を提示してそこから選択させることにさせた。その結果、生徒達は、上のような多くの方法をまとめの中に取り入れたことがわかる。

〈発表会について〉

(13) 発表会の質疑応答は役に立ちましたか？

a. とても役に立った	9
b. 少し役に立った	42
c. あまり役に立たなかった	55
d. まったく役に立たなかった	37

自分の意見が言える生徒のいる班とそうでない班とでは、発表後の質疑応答に差があったようである。発表を聞いて意見を言うという行為は、「柏樹タイム」の中だけでは育たないことで、今回のこの結果を反省材料として、総合学習と必修教科の双方で、生徒に質疑応答ができる能力をつけさせたいと考える。

(14) 自分の発表で使ったものはどれですか？（複数回答可）

a. コンピュータ	14
b. 実物投影機	106
c. OHP	37
d. 模造紙	20
e. 印刷物配布	5
f. その他	6（黒板3，地図1，ビデオ1，画用紙1）

回答なし 3

(15) 他の人の発表で見やすいと思ったのはどれですか？（複数回答可）

a. コンピュータ	107
b. 実物投影機	34
c. OHP	47
d. 模造紙	15
e. 印刷物配布	51
f. その他	2（写真）

(16) 他の人の発表で見習いたいと思ったことを書いてください。

- ・パソコンでの発表（同意見 40）
- ・自分の意見が言えること（同意見 8）
- ・OHPの利用（同意見 6）
- ・ゆっくりわかりやすく話す（同意見 5）
- ・発表態度（声など）（同意見 5）
- ・実物投影機を使うこと（同意見 5）
- ・模造紙の利用（同意見 4）
- ・クイズ（同意見 3）
- ・写真を入れて飽きさせないように（同意見 2）
- ・発表原稿を作ってあった（同意見 2）
- ・手順をきちんとする（同意見 2）
- ・パワーポイントで保存
- ・プリントを使う
- ・図式化
- ・いろいろな道具を使う
- ・説得力のある話し方
- ・飽きさせない工夫
- ・現地学習をがんばった人が多かった
- ・自分の体験を通して感想を言うこと
- ・明確なテーマ
- ・印刷物の配布
- ・たくさん調べてあったこと
- ・まとめ方
- ・現地学習のまとめ方

コンピュータを用いて発表をした生徒は、さほど多くはなかったが、発表を聞く側の生徒にとって最も印象深かったのが、コンピュータを用いた発表であったようである。コンピュータでの発表を含め、他の生徒の様々な発表形態を見ることで、今後、このようなプレゼンテーションをするにはどのような方法が最も効果的であるかということ、生徒は学んだのではないと思われる。



〈最後に〉

(17)「柏樹タイム」の活動で、一番印象に残っていることは何ですか？

- ・現地学習 (同意見 51)
- ・現地学習での体験 (同意見 6)
- ・発表 (同意見 5)
- ・発表会でいろいろな金沢を知ることができた (同意見 4)
- ・まとめ作業 (同意見 2)
- ・現地学習で質問にやさしく答えてくれた (同意見 2)
- ・夏休み中の現地学習
- ・現地学習で行きたいところに行けなかった
- ・現地学習でのアンケート調査
- ・警察の方の優しいイメージ
- ・インタビュー
- ・外国人にインタビューしたこと
- ・夜遅くまで図書館で調べたこと
- ・電話をしたこと
- ・自分でホームページを作った人がいたこと
- ・パワーポイントがすごい
- ・知らないことを知ることができた動機
- ・発表会でお互いに意見を言い合ったこと
- ・自分の考えをまとめたこと
- ・和菓子作りの体験
- ・インターネットをしたこと
- ・先生に押しつけられた時間。もっと生徒のやりたいことをやるべき
- ・テーマ設定に苦労したがうまくいった

(18)「柏樹タイム」は、自分で決めたテーマを自分なりの方法で調べましたが、この活動を通して

- ①わかったこと(内容ではなく)や得たもの(例 現地学習での人とのふれあいなど)
- ②この先役に立つだろうと思われること(例 自分で調べることの大切さや楽しさ、電話のかけかたや手紙の書き方など)

を書いて下さい。

- ・自分の足・目を使って調べることの大切さを知った (同意見 15)
- ・他の人との関わり合い (同意見 15)
- ・礼儀やマナーを学んだ (同意見 10)
- ・現地学習で接した人が優しかった (同意見 6)
- ・電話のかけ方を学んだ (同意見 5)
- ・インターネットのおもしろさ、検索の仕方がわかった (同意見 4)
- ・自分で調べ、まとめ発表するまでの充実感があった (同意見 4)

- ・知らない人と話すときの礼儀が身に付いた (同意見 4)
- ・現地学習の重要性 (同意見 3)
- ・まとめがわかった (同意見 2)
- ・あきらめないことの大切さ (同意見 2)
- ・主張をしたり、聞いたりする大切さ (同意見 2)
- ・発表のしかた (同意見 2)
- ・発表は表現力が必要 (同意見 2)
- ・自分で決めて自分で実行することのむずかしさ (同意見 2)
- ・まとめたり整理する能力が付いた (同意見 2)
- ・他の人のことを考えることができた (社会の成立) (同意見 2)
- ・一人で調べる喜びや方法を知った
- ・こういう機会でないと見学できないようなところを見学できた
- ・現地学習で年齢の異なる人と話せた
- ・電話を通して人との接し方を学んだ
- ・目上の人と話す難しさ
- ・インターネットでEメールをしたこと
- ・発表することの楽しさ
- ・興味を持ったことを自分で調べる
- ・みんな一生懸命がんばった
- ・現地学習の大切さ
- ・TVや写真と違い、現地学習は印象が強い
- ・アポを取る方法や質問の仕方を学んだ
- ・知らなかったことを知る喜び
- ・資料は多ければ多いほどよい
- ・市役所は入りにくくない(市や県は住民のことを考えて行政を行っている)
- ・調査は早いうちに行う
- ・社会生活において大切なことを学んだ
- ・海の大切さを学んだ
- ・協力してくれた人に感謝の気持ち
- ・聞く人にわかりやすく発表する難しさ
- ・金沢のいろいろなところで抹茶が飲めることがわかった
- ・いろんなところで、いろんな人が努力していることがわかった
- ・どんな発表がわかりやすいかわかった
- ・情報を求めて走り回るのは楽しかった
- ・警察を調べたが、TVや映画とはずいぶん違っていた
- ・最後までやり遂げることの大変さとうれしさ
- ・テーマがしっかりしていないと活動が難しい
- ・人を頼ってもダメ 自分でやらねば

- ・先祖のルーツがわかって面白かった
- ・お父さんがどんな仕事をしているかわかった
- ・アンケートに協力してもらったうれしさ
- ・ほかの地域の人とのふれあい
- ・人に質問するには事前の調査が必要
- ・普段何も考えずに行動するのではなく、日頃から物事に対する観察力を身につける
- ・友達との協力ができた
- ・子供が自分に質問してきたら、やさしく接してあげたい
- ・「柏樹タイム」はやめたほうがよい

(17) と (18) の項目に対する回答を見ると、一部否定的なものがあるが、大半は「柏樹タイム」の活動について好印象を持っていたり、活動の意義を認めている。特に、フィールドワークについては、強い印象を受けた生徒や、フィールドワークの中で貴重な体験をしたり充実感を感じることが多かった生徒が多数いた。本校の総合的な学習の時間は、生徒が生き方を探したり、やりたいことを探すために必要となる力をつけることに使う、という基本理念で進めてきたが、これらの生徒の回答からは、本校のねらいとしてきたことがある程度達成されているのではないかとと思われる。

## 16. 今後の課題

1年時に実施したスキル学習の一つとしての「コンピュータの基礎教育」、2年時で実施した修学旅行を通しての「課題追求学習」、そして、3年時での「金沢」をテーマにした本格的な「課題追求学習」と、計画的に3年間の学習をおこなってきた。

スキル学習、特にコンピュータの操作については、ワープロソフト、プレゼンテーションソフト・インターネット検索・電子メール送受信と様々なことを学んできた。生徒はコンピュータに強い関心を示し、大変速いスピードで操作を理解したと思われる。ただ、1年から3年の「柏樹タイム」の活動において、常時コンピュータを使用していたわけではない。間隔があくと、操作を思い出すのにかなり手間取る生徒もみられた。コンピュータに日常的に触れることができる環境、たとえば、教室や図書館内にコンピュータが設置され、筆記用具を使う感覚で生徒が触ることができれば、この問題はかなり解消されるのではないかとと思われる。

2、3年時の「課題追求学習」では、生徒の関心事をいかに学習と結びつけるかが大きな問題として残った。特に、3年時の学習課題設定において、「金沢」に関連するものを選ぶということが、生徒にとっては、自分の調べてみたいことをその中に見つけることができず、学習意欲を削がれたというケースが多く見られた。「金沢」に関連するものという設定条件よりも、「金沢」という地で、フィールドワークや資料集が可能なテーマであれば、それを認める方向も考えられる。

フィールドワークに関していえば、生徒が学校では学べないことや人との触れあいを体験していることをみると、「生きる力」の育成には欠かせない活動であるといえる。ただ、生徒がフィールドワークに出かける際に、地域社会や企業等が快く受け入れてくれることが必要条件である。今年度の活動では、それぞれの担当教諭が、生徒の訪問先（公的機関を除く）に連絡を入れて活動の趣旨を理解してもらい活動に協力してもらったが、総合的な学習において、多くの中学校が類似した活動をすれば、受け入れ側も困惑すると思わ

れる。そう言った意味で、教育の変革を受け入れる地域社会のインフラづくりをどのようにしていくのかが大きな課題と思われる。

最後に、今年度から「柏樹タイム」への理解を求める上で、保護者や卒業生に協力を求めたが、今後益々協力してもらえる方の数を増やし、保護者に関しては、その生徒が卒業しても「人材バンク」のような形で協力してもらえないかと考えている。

## Ⅱ. 生徒の活動と支援の実例

3年柏樹タイム 1班

男子 10名 女子 9名

支援者 水橋 長之

### ◆A子の例

#### 1. A子の研究内容

##### (1) 研究テーマ

「金沢の浄土真宗」

##### (2) 研究の動機

A子の家が、浄土真宗を信仰しており、「金沢では浄土真宗の広まりが多い」などの予備知識が豊富であったため、このテーマを選んだ。

##### (3) 研究の方法

###### ①文献調査

- ・学校の図書館での文献調査。

いろいろとあたってみたが、研究の意図に沿うような資料がなく、公立の図書館やインターネットによる調査を中心とすることにした。

- ・市立泉野図書館の郷土資料調査。

金沢別院発行「東別院の道」、常福寺発行「加賀常福寺誌」、井上 雪著「北陸の四季」など郷土関係の書物を閲覧することができ、研究の方向性も定まってきた。

- ・インターネットのホームページ検索。

「金沢別院」、「親鸞上人」、「蓮如」、「本願寺」などのキーワードをはじめ、考えられる言葉から、さらに多くの知識を得ることができた。

###### ②フィールドワーク

- ・金沢東別院訪問。

文献調査の中で、金沢における浄土真宗の歴史や広まりについて、おおわくを知ることができた。しかし、「これからの信仰の在り方」や「現代人の信仰のなさ」など、より今日的なことを調べることができなかった。そのため、インタビューをもとに、より確かなまとめをするために、フィールドワークへと出かけた。

##### (4) 研究内容の概略

###### ①浄土真宗のおこりから二分されるまで。

- ・親鸞上人によって、約800年前におこされたのが浄土真宗である。しかし、戦国時代には力を持ちすぎたため、「念仏弾圧」の的となり、織田信長によって、東本願寺派（真宗大谷派）と西本願寺派（真宗本願寺派）とに分断され、今日に至っている。

###### ②金沢における浄土真宗の広まり。

- ・3代覚如上人が、加賀へ巡礼に来て伝わったとされている。
- ・8代蓮如上人が、布教活動に励み、ついには、北陸で真宗王国を築くほど広められました。金沢に、きちんとしたお寺が建てられたのは、1546年で、これが今の金沢城跡である。

### ③金沢別院について。

- ・現在、金沢には東本願寺派196 寺、西本願寺派17 寺がある。
- ・金沢別院は金沢だけでなく、その他合計340 ほどの寺院を13の組に分けていろいろな行事を統合している。

### ④現代の浄土真宗の在り方。

- ・今の若い人には「葬式仏教」のイメージがあり、それをなくすために、仏教講座を開いたり、ラジオ放送やテレフォン法話などの努力をしている。

### (5) 感想及び反省

これを調べて、浄土真宗の新しい一面を知ることができた。今の時代、宗教は疑わしいものというイメージがついてしまっている。しかし、私は、宗教とは、人が生きていく中で、心のよりどころとなる大切なものではないかと改めて思うことができた。私は、このことを調べることができて本当に良かった。

## 2. A子の研究への関わり方

### (1) テーマ決め

「金沢」という中で、いろいろとテーマを考えてみたが、なかなか決まらなかった。

より身近なものを模索するうちに「お寺」というテーマを設定した。

金沢には「寺町」があり、その分布からスタートしようと考えていたが、あまりにも膨大な寺院数と、その宗派の多さから、さらなる絞り込みが必要であることなどカウンセリングした。家の宗派が浄土真宗であったことから、テーマを浄土真宗に絞り込むことにした。

### (2) 資料探し・現地調査

学校の図書館での文献調査では、思うように資料を集めることができず、校内では、もっぱら、インターネットのホームページ検索による資料探しとなった。金沢における「寺院マップ」づくりも考えたが、膨大な寺院数と宗派の区別が難しく断念した。

カウンセリングの中で、金沢における浄土真宗の中心である金沢別院への訪問などフィールドワークをすすめた。その計画の中で、インタビュー内容を検討していくうちに、研究の方向性が固まっていった。

### (3) 中間発表

主として、文献調査からの中間発表では、浄土真宗の歴史や特定の寺院についての調査、発表がなされた。歴史については文献で十分に調査できたが、そのほかの事柄については、生徒同士の意見交換、質疑の中で、新たな方向性が見えてきた。その結果、若い人々の信仰離れや浄土真宗の今後についてなど、まとめの中に取り入れていく内容が膨らんできた。

## 3. 考察及び今後の課題

「金沢」における身近なテーマの設定ということからスタートしたが、ありすぎてなかなか絞り込むことができなかった。また、調査していくうちに、調べたい内容の資料がなかなかなく、あったとしても、まとめるのが非常に難しいことがわかり、研究の方向性が変わっていった。このことは、「学び方を学ぶ」ことから成果があったととらえられる。単に、発表会用のまとめではなく、試行錯誤の中でまとめ上げる苦勞が身についたと考えている。今後は、さらにテーマ選びの時間にゆとりを持ち、ゆっくりとカウンセリングしながら進めていくことが大切であると思われる。

◆B子の例

1. B子の研究内容

(1) 研究テーマ

「金沢の観光地」

(2) 研究の動機

金沢は観光地だと言われているが、あらためて考えてみると、実際に地元に住んでいながらその観光地については詳しく知らないことに気が付いた。研究を通して金沢の魅力を見つけたいと考え、実際に調べてみることにした。

(3) 研究の方法

①情報収集

- ・旅行のガイドブックやインターネットによる検索で、金沢の観光地で有名なところを調べ、その代表的場所をいくつか絞る。

②フィールドワーク

- ・①で絞った観光地に実際に行き、観光客としてその魅力を味わってみる。
- ・実際の観光客にインタビューし、アンケートに答えてもらう。

③他県との比較

- ・②で行なったインタビューやアンケートの結果を、自分が他県の観光地に抱いているイメージや考え方と比較し、観光地としての金沢にはどんな点が不足しているのかを考えてみる。

(4) 研究内容の概略

①情報収集

- ・ガイドブックに出てくる金沢の観光地として代表的なところとしては、兼六園、金沢城址、尾山神社、東茶屋街があげられる。実際にフィールドワークに行く場所として、兼六園、金沢城址、尾山神社の3ヶ所を選んだ。

②フィールドワーク

- ・実際に観光客として歩き、写真を撮る中で、次第に金沢に観光地の落ち着いた雰囲気を感じた。その理由としては、自然の緑の多さとそれを生かした佇まい、もともと持っている歴史の気配を、具体的な説明で、より感じさせる工夫がある。
- ・兼六園で実際の観光客にアンケートに協力していただいた。内容は以下の8つ。
  - Q1. どこからいらっしゃいましたか。
  - Q2. 金沢に来るのは何回目ですか。
  - Q3. 金沢を観光地にしたのはなぜですか。
  - Q4. 金沢に来て思ったことはありますか。
  - Q5. 実際に兼六園を訪れた感想を聞かせてください。
  - Q6. 金沢以外の土地でよかったと思う観光地はどこですか。その理由も教えてください。
  - Q7. 金沢に来て食べるのが楽しみだった、またはおいしかった食べ物はなんですか。
  - Q8. 金沢ですでに買った、または買う予定のおみやげを教えてください。

アンケートの結果から、ほとんどの人が金沢に落ち着いたイメージを持ってきており、実際に来てみてさらに良くなったと答えられた。そのイメージはB子自身が感じたものとはほぼ同じだった。

さらに金沢以外の土地で良かったと思う観光地も、歴史的建物がある場所や、自然が美しい場所が多くあげられていた。

### ③他県との比較

- ・アンケートの結果から、B子が行ったことのある観光地として、歴史的建物が多い京都と、自然が豊かな長野について、ガイドブックやインターネットで調べた。
- ・京都、長野との比較で、金沢の観光地は歴史、建物、自然など、全般的にこじんまりした印象がある。その対策としては、現在ある歴史や自然を全国的にPRすることと同時に、それをしっかり守っていく必要がある。

### (5) 感想および反省

今まで金沢は漠然と古い街というイメージだったのが、観光という外からの視点で見つめなおした結果、魅力的に見えてきた。地元にながら知らなかったことの発見があり、同時に疑問を持つことも出てきたので、また調べてみたいと考えている。

時間的に一部の観光地しか見学することができず、アンケートもツアー観光客の限られた時間では答えてもらうのが困難だったため、データの量が少なかったのが残念だった。

## 2. B子の研究への関わり方

### (1) テーマ決め

観光地としての金沢はテーマの設定としては分かりやすい反面、大きすぎるテーマだとも言える。特にとりかかりの段階では何から手をつければいいのか分からず、漠然と時間が過ぎるため、とりあえず場所を絞り込み、一観光客としての視点で考えるようにアドバイスをを行った。

### (2) フィールドワーク

一般観光客からアンケートを取るという発想にもひと工夫を求め、答えてくれた方に何かお礼ができないかを考えさせた。結果的に、ガイドブックにはない地元の人間のアドバイスを差し上げることになり、本校の先生方に美味しいお店やお薦めのお土産の紹介アンケートをお願いし、それをまとめたプリントを作成した。本番のアンケート作成とそのまとめの練習にもなったようである。

### (3) 中間発表

中間発表の時点でほぼ金沢に関するまとめは完成していた。残された短い時間で他県の観光地についての調べ学習を始めようとしていたため、中途半端になるなら、まとめ終わった金沢の結果から何が推察されるのかに活動を絞るようにアドバイスをした。

## 3. 考察及び今後の課題

金沢というテーマに限らず、あるいはもっと大きな、環境や国際理解といったテーマで調べ活動をする際には、教師の側により具体的な展開のプランがいくつも考えられていることが大切である。事前に活動のシミュレーションが行われることで、本当に必要なものと、不必要なものがはっきりしてくる。実際に今回のB子の活動でも、本来の研究からはずれた先生方による美味しいお店やお薦めのお土産紹介が観光客には好評だったようで、後日アンケートに答えてくださった方からB子宛てに、その晩さっそく紹介されたお店で夕食を取り、楽しいひとときを過ごしたというお礼状が届いた。B子にとっては一番嬉しく、心に残る体験になったようである。



◆C男の例

1. C男の研究内容

(1) 研究テーマ

「金沢の釣り事情」

(2) 研究の動機

以前から釣りに興味を持っており、休日には釣りに出かけることも多い。その中で、最近になって釣り人のマナーの低下や釣り場のゴミによる汚染が目立つようになってきた。「釣り」というものを普段とはまた別の視点からとらえて研究してみることにした。

(3) 研究の方法

① インターネット上の釣り情報の検索

「釣り」「金沢の釣」などをキーワードに検索。金沢市役所のホームページにもアクセス

- ・金沢にはどのような釣り場があるか
- ・それぞれのポイントによって釣れる魚の種類としかけ
- ・それぞれの釣り場において、環境への配慮や釣り人が守るべきマナーについての広報がなされているか

② 文献調査

- ・釣り場の特徴と釣れる魚の種類・仕掛けについて

③ 現地調査

- ・文献で調べた仕掛けを使って実際に釣ってみる
- ・当日の釣り場の様子・水温・天候・風向きなどを細かく記録・分析する
- ・釣り場に来ている人へアンケートをとる

(実際に釣れる魚と仕掛けについて、最近の釣り人のマナーについて)

(4) 研究内容の概略

① 金沢の釣り場について

- ・様々な釣り場があり、休日にはたくさんの人が訪れている。
- ・大きく分けて港周辺の釣り場と川縁の釣り場に分けられる。

② 文献で調べた仕掛け・ポイントと実際の釣りについて

- ・実際に釣れる魚は違った。釣り場の人々に聞くと、経験と勘がものをいうようだ。

③ 現地調査のまとめ

- ・休日調査も含めて5回（港4回，川1回）調査を行った結果のまとめ。

(デジタルカメラで釣った魚や釣り場の様子を記録、プレゼンテーションソフトでまとめた。)

- ・ふぐ（小さいもの）やあいなめ、カレイなども釣れた。水温は気温より低い。
- ・魚の水温による習性と釣れるポイントはだいたい文献の通り。

④ ルアー釣りと餌釣りの違いについて

⑤ 釣り人のマナーについて

- ・全ての人ではないが、釣り人のマナーは年々低下している。
- ・ゴミを捨てていく人が目立つ。(港の釣り場ではゴミが浮いている)
- ・立入禁止区域に入る。(事故があったにもかかわらず、減らない)

#### (5) 感想及び反省

自分が興味を持っているテーマだったので、調べやすかったし、楽しかった。現地調査では、本の通りにはいかないということを痛感したが、自分なりに仕掛けやポイント、気温や水温などを細かく分析、まとめることが出来たので良かった。しかし、釣りに来ていた人々と話したり、実際に釣り場の状況を見たりして、近年釣り人のマナーが低下していることがわかり、非常に残念である。どうすれば釣り人のマナーが向上するか、今後は考えていきたい。

### 2. C男の研究への関わり方

#### (1) テーマ決め

当初は自分のやりたいことが見つからず、テーマ決めに苦慮していたが、自分が興味を持てるものとして、C男は「釣り」を選択した。支援する側も、ともすれば趣味の領域で終わってしまうテーマなだけに、そのテーマを認めるか悩んだが、彼の興味・関心を優先し、綿密な調査計画を立てさせることで、このテーマを認め、支援していくことにした。

#### (2) 資料探し・現地調査

資料については、インターネットではほとんど情報が得られなかったため、文献調査が主になった。しかし、現地調査をとまなわなければ研究が進まなかったため、資料探しや文献調査の時間は、現地調査の計画を立てるのにも使われた。

現地調査は「釣り場」という特殊な場所のため、教員の引率を必要とした。毎回少ない教員の中から引率を出すのにも苦労したが、3年柏樹タイム担当教員の理解もあって、なんとか毎回の調査についていくことが出来た。

#### (3) 中間発表

中間発表の段階では、ほとんど研究がすすんでおらず、集めてきたデータを羅列するだけで終わった。そこで、それらをいかにまとめていくかを助言した。当初はポイントマップをつくる予定ではあったが、時間的に間に合わないので、調査したデータをまとめ、考察を加えるという方向で研究を進めるよう助言した。同じ班の中からも、もっとしっかりデータをまとめておいたほうがいい、という意見が出た。この遅れは、後々までひびくことになったので、もっとしっかりとまとめさせておかなければいけなかった。

### 3. 考察及び今後の課題

一番苦慮したのは、彼の興味・関心を優先して決めさせたテーマに、いかに意欲的にとりくませるかであった。いろいろな意見があり、事実、他の生徒から「自分の趣味についてまとめただけではないか。」という声もあがった。しかし、C男は、このテーマが認められたあたりから、総合科のみならず、他の教科においても、次第に学習意欲が長続きしていく様子がうかがえた。そして、出来上がったレポートをみると、最終的には自分の意見をしっかりと述べてあり、1つのものをやり遂げたという満足感が伝わってきた。C男にとっては内容的なものよりも、集めたデータのまとめ方と、自分の意見の述べ方、レポートを作り上げたという1つの成功体験などが、今後の彼の財産となって残っていくと思われる。

◆D子の例

1. D子の研究内容

(1) 研究テーマ

金沢の金箔

(2) 研究の動機

- ①修学旅行で京都の金閣寺を訪れたとき、金沢の金箔がたくさん使用されていることを聞き、金箔に興味をもったこと。
- ②和菓子や石鹼などの日用品などに金箔が使用されているが、それは見た目の良さもさることながら、何か他の理由があるのではないかと考えて、調査したかったこと。

(3) 研究の方法

- ①金箔を扱う店舗を訪問し、インタビューや体験学習をする。
- ②インターネットで金箔に関するホームページを検索し資料を収集する。
- ③文献で資料を収集する。

(4) 研究内容の概略

- ①金箔は、金沢で、いつ作り始められ広まったのか。
  - ・ 1593年頃に、前田利家公の命令で作り始められた。
  - ・ 文化5年（1808年）、焼失した金沢城二の丸御殿を再興する際、大量の金箔が必要になり、京都などから箔職人が呼び寄せられ、それがきっかけで広まった。
- ②金箔はどのようにして作るのか。
  - ・ 大きく分けて約8つの作業がある。塊から金箔にするまで数ヶ月の日数がかかる。
- ③職人さんの人数
  - ・ 現在、約1140人の職人さんがいるが、やはり、若い職人さん達が少ない。
- ④金箔は何に利用されるのか。
  - ・ 石鹼、食器などの日用品や食品などに使われている。
  - ・ 味や栄養はないけれど、毎日食べることでガンやエイズに効くらしい。
- ⑤金沢の金箔について。
  - ・ 金沢の金箔は、1998年現在、全国の99%を占めている。
- ⑥金についてのおもしろい話の紹介。
- ⑦『箔座』訪問（第1回のフィールドワーク）
  - ・ 再現した秀吉の黄金の茶室を見学。使用されている金箔の枚数は12万枚。塊にすると3kgになる。
  - ・ 世界初の金箔を張った自動販売機が設置してあった。
- ⑧『佛華堂』訪問（第2回のフィールドワーク）
  - ・ 仏壇に張られている金箔の枚数や値段を調査。
  - ・ 板に金箔を張る作業を体験。

(5) 主な活動の記録

- 6月14日 金箔を扱っている店探し。(タウンページ使用)  
6月21日 文献調査。ホームページで金箔を扱っている店探し。  
6月28日 第1回フィールドワーク。『箔座』訪問。  
7月14日 第2回フィールドワーク。『佛華堂』訪問。  
9月 6日 中間発表に向けてのまとめ作業。  
9月27日 中間発表(自分の発表)。  
10月18日 最終レポートまとめ作業。最終発表用の小道具作り。  
10月25日 最終レポート提出。  
11月 1日 班別発表会(自分の発表)。

#### (6) 感想及び反省

調べ始めると、いろいろなことがわかって、すごく面白く楽しかった。金箔が、こんなに奥の深いものだと思って驚いた。フィールドワークには、2回しか行けなかったのもっと行けばよかったと思う。

### 2. D子の研究への関わり方

#### (1) テーマ決め

最初テーマに選んだのは「金沢の和菓子」であったが、D子にとって納得のいくものではなかった。カウンセリングの結果、とにかく金沢に残る伝統的なものを調べてみたいとの気持ちと修学旅行での金閣寺訪問時の、「金箔」をテーマに選んだ。

#### (2) 資料探し・現地調査

インターネットの検索エンジンを使つての資料収集では、「金」「金箔」「伝統工芸」「金閣寺」などのキーワードをうまく打ち込むことで、求める資料を探すように支援した。石川県立歴史博物館、箔座などのホームページなどから興味深い多くの資料を入手した。

第1回目のフィールドワーク先の『箔座』へは、D子自身が行なった訪問予約の確認と学校側からの活動趣旨説明を電話で行なった。とても丁寧な対応で生徒の来店を歓迎してくださった。また、第1回目のフィールドワーク先の『佛華堂』は、柏樹タイム支援者である他学年保護者の方の勤務先であった。金箔についての質問を受け付けてくださるということで、D子に訪問依頼をするように薦めた。この方は、偶然D子の母親の知り合いということもあり、金箔張りの体験学習もさせてもらえることになった。

#### (3) 中間発表

D子は、金箔に関する多くの情報を集めてきていたが、中でも自ら金箔を張るという体験学習が他の生徒が行っていないD子の活動の特色である。中間発表では、写真による発表であったので、体験学習についての発表をよりリアルなものにするために、班別発表では、実際に自分が作ったものの提示や金箔の大きさを理解してもらうための工夫などを行なってみてはどうかとアドバイスした。

### 3. 考察及び今後の課題

情報の収集だけにとどまらず、体験活動があったことがD子にとってとても良かった。柏樹タイム終了時の感想で「もっとフィールドワークにでてみたかった。」という感想にD子の意欲の高まりを感じることができた。総合的な学習で伝統産業をテーマにする際、今回の活動のような体験的なものが望ましいように思われる。

◆E子の例

1. E子の研究内容

(1) 研究テーマ

金沢と外国人とのかかわりについて

(2) 研究の動機

E子は、中1の夏休みに1か月間、アメリカにホームステイした経験を持つ。その時、ホストファミリーをはじめ、人々が積極的に、温かく迎え入れてくれたことに感激したE子は、将来、自分も外国人のホームステイを受け入れたいと思い、今回、本テーマを設定した。

(3) 研究の方法

①インターネット検索

②フィールドワーク

・石川県国際交流協会などの施設訪問や外国語表記等の該当調査

③アンケート調査

④新聞記事のスクラップ

(4) 研究内容の概略

①金沢は外国人に対して何をしているか

・案内、表示などについて

交通機関…バス停、駅などで英字表記のあるところは、ごくわずかである。

兼六園……入口に英字の案内板が設置してあるほか、英語、中国語、ハングル語のパンフレットを出している。

・国際交流関係の施設について

石川県国際交流協会…外国人のための生活、法律相談や、日本語教室、伝統文化無料体験などを行っているほか、多言語による情報誌、ガイドブックを発行している。

その他、資料によると、市内の国際交流団体は40を数える。

②金沢で行われる外国人とのイベント・交流会

自治体主催の全県的な大規模なものから、学校や町内会で行われているものまで、数えきれないくらい頻繁に行われていることがわかった。

③外国人の人は何の目的で金沢に来たか

アンケートの結果、仕事で金沢に滞在している人が、最も多いことがわかったため、金沢職業安定所で話を聞いた。職業で多いのは、外国語教師、生産、技術の仕事で、ここ数年、金沢で職に就く外国人が増えてきており、職安では通訳を配置した「外国人雇用サービスコーナー」を開設した。

④金沢市、私たちはこれから外国人に対して何ができるか

・英字表記をもっと増やす

・外国人と積極的にかかわる

・住みよい街づくりに心がける

## (5) 主な活動の記録

- 6月14日 公報で、国際交流センターなどの存在を知る。
- 6月21日 インターネットで、石川県と金沢市のホームページを見る。
- 6月28日 第1回フィールドワーク 石川県国際交流協会訪問
- 7月14日 第2回フィールドワーク 金沢市役所訪問、兼六園等見学
- 9月20日 第3回フィールドワーク 金沢国際交流財団訪問
- 10月 4日 第4回フィールドワーク 金沢職業安定所訪問

## (6) 感想及び反省

調べていくうちに興味が広がり、毎日新聞を見て国際交流に関する記事を探したりして楽しかったが、テーマからはずれたことまで詳しく調べてしまったり、パンフレットをもらいすぎたりして、後でまとめるのが大変だった。また、施設にお話を聞きにいくときの言葉遣いが難しく、日本語をきちんと話すことをあまり考えてこなかったと反省した。

## 2. E子の研究への関わり方

### (1) テーマ決め

E子は、自分の興味の方向をよく自覚しており、英語の授業にも熱心に取り組んでいる生徒だけに、「国際交流」という言葉は最初から出ており、「金沢」とのドッキングも、比較的すんなり決まった。

### (2) 資料探し・現地調査

公報誌や、自治体が開設しているホームページによって、国際交流団体が多く存在することはすぐにわかったが、E子は、その多くが県レベルの団体であることに戸惑っていた。テーマの「金沢」にとらわれて、金沢市にこだわってしまったからである。そこで、外国人の多くは金沢市に在住しており、団体の事務所も市内にあるということで、とりあえず訪問してみても、とアドバイスした。実際にフィールドワークに出たからのE子は、いろいろ調べていくうちにどんどん興味が広がり、次々と訪問先が増えていった。1回のフィールドワークで、予定していなかったところへも行きたいと、許可を求めてきたほどである。

### (3) 中間発表

E子は、調べたことや集めた資料が多すぎて、なかなかまとめられないというタイプだった。しかし、中間発表があったため、そのことに気づくことができ、まとめの方向をよく考え、フィールドワークの訪問先を変更していた。

## 3. 考察及び今後の課題

調べ作業後の扱いについて、単に調べっぱなしというのはどうかという考え方もあろうが、一方、どんどん興味が広げ調査を進めていきながら、テーマに縛られてまとめに四苦八苦しているE子を見ると、必ず1つの「作品」にまとめあげる必要があるのだろうかという疑問が出てきたことは確かである。興味を持って調査していくことに重点を置くとすれば、E子のような生徒が、調べに行きたいと思ったときに、あまり時間をおかずにフィールドワークに出かけられるような環境、生徒の自主性を最大限尊重できるような、いい意味での余裕が今後できてくることが望ましいと思われる。

◆F男の例

1. F男の研究内容

(1) 研究テーマ

「金沢市の行う福祉活動」

(2) 研究の動機

社会の高齢化が進む中、金沢市が一つの地方自治体としてどういった活動をしているか、また、この研究を通して、自分自身の福祉に対する意識を高めようと思ったから。

(3) 研究の方法

①市役所に行って資料の収集をする。

②インターネット（いいネット金沢）を見て調べる。

(4) 研究内容の概略

①国民健康保険

職場の健康保険未加入者を対象に、相互扶助を目的とした医療保険制度。

- ・医療費の約8～7割が国保の負担
- ・出産・育児で申請すると、赤ちゃん1人につき300,000円の支給
- ・被保険者が死亡したとき50,000円の支給 など

②国民年金

- ・全ての国民に老後の保障を行う制度。
- ・老齢基礎年金、障害基礎年金、死亡一時金

③老人の介護

- ・ホームヘルパーの派遣
- ・入浴サービス
- ・デイサービス
- ・各種レンタル品－電動ベッド、車椅子、リフト、ガス漏れ警報機
- ・金沢市シルバーセンター－60才以上で働きたいという人への会員登録

④障害者の保護

- ・手話通訳者の派遣
- ・障害者の家庭への特別手当金
- ・ホームヘルパーの派遣
- ・各種レンタル品－車椅子、補装具など

⑤介護保険制度

- ・介護を社会全体で支え、利用者の希望を尊重した総合的なサービスが安心して受けられる仕組み。

(5) 感想及び反省

福祉の準備は、金沢市だけでなく国、各地方自治体で行われており、これからの高齢化社会の中でますます重要になってくると思った。そのためには、若い世代の人々が福祉に関する知識をより多く

正確に得る事の重要さを、この調べ学習を通して知った。金沢市もそのための情報公開を行っているの  
でそういう情報にも耳を傾けていき、それと同時に、これからの福祉は地域での運動が中心となってく  
るので、地域住民がもっと関心を持ち、住民一人一人が福祉に対する意識を高める事ができれば、さら  
によくなっていくと思った。

## 2. F男の研究への関わり方

### (1) テーマ決め

F男ははじめ「金沢市の公共施設」というテーマで研究を開始した。彼の興味の対象は主に体育館な  
どのスポーツ施設であったが、調べていくうちに飽き足らなさを感じるようになった。なにがどこにあ  
るとか、いくつあるとか、また、体育館の設備についてなど調べてもどこも同じようなものなので、あ  
まり意味がないように思いはじめたようだ。研究を始める前に彼が思っていたほどの、奥行きや広がり  
が期待できないことがわかってきた。調べ活動では、金沢市が発行している「かなざわ 生活ページ」  
を使っていたのだが、そこには公共施設のほかに、届出、証明、健康・医療、教育・環境、税金相談な  
ど市民の生活情報が盛り込まれていた。F男には、日常生活にはほとんど支障はないものの軽度の障害  
があり、彼が見た「かなざわ 生活ページ」の「国保・年金・福祉」の内、特に「福祉」の項目に興味  
を持つようになった。「公共施設」というテーマを続けるか、変更するかかなり迷い話し合いをもった  
が、最終的にテーマを変更することにした。国民健康保険、老人の介護、障害者の福祉、介護保険制度  
のシステムについての4項目を調べる事にした。

## 3. 考察及び今後の課題

研究テーマの候補として、はじめ「コンビニ」や「国際関係」なども考えていたが、K男がバスケットボ  
ール部に所属していたこともあり、体育館を中心とした「公共施設」をテーマとする事がすんなり決まった。  
教師は、F男の「公共施設」についての思いや、研究の方向、活動予定などを聞き、順調に活動が進むと思  
っていた。しかし、前述のように、研究に行き詰まり最終的に「福祉」になった。柏樹タイムでは、テーマ  
決定をするためにオリエンテーション、テーマ探し、意見交換会、テーマ設定理由の報告会などいくつかの  
段階を設けて、長続きのするテーマを選ぶようにしている。しかし、K男の場合は、実際に活動がはじまり  
調べ学習をするなかで、より興味を引くテーマが現れ、新しいテーマに変更した。この事は、調べ学習をす  
る過程の中で、自分の中に眠っていた興味・関心と呼び起こすものに出会えた例といえる。

### ◆G子の例

#### 1. G子の研究内容

##### (1) 研究テーマ

「金沢の公園」

##### (2) 研究の動機

近所の公園に行ったとき、たくさんの遊ぶものがある小さい子供たちは楽しく遊んでいて満足そう  
だったけど、お年寄りや障害のある人（車イスの人など）はどうなのかなと、ふと疑問に思ったからで  
す。

##### (3) 研究の方法



①インターネット

②現地調査

(4) 研究内容の概略

①公園の種類

身近な公園として

街区公園

近隣公園

地区公園

②金沢の公園数（平成11年）

市立－424

県立－11

総合計－435

総面積－424.8ha（東京ディズニーランド5個分）

③金沢市の新しい公園作り

明治6年 国から兼六園が開放され、この頃から公園が増加。

↓

現在 今では市民あたり14.6m<sup>2</sup>で将来は20m<sup>2</sup>が目標。毎年、年間に20個くらいの公園が作られたり、リニューアルされている。

④目的－公共の福祉のため

- ・自然環境の保全
- ・防災のための空間
- ・コミュニティー形成の場

⑤公園を作るときに気をつけること

地域の人が利用しやすい事

- ・器具の安全性
- ・バリアフリー

⑥問題点

- ・ベンキがはげるなどの遊具の手入れ
- ・芝生の手入れ
- ・トイレ掃除など



解決法（年間3000件以上の苦情）

地元町会など市民の協力

⑦理想的な公園とは

- ・周辺の自然環境との調和
- ・住宅環境との調和
- ・利用対象者の特性

↓  
・それぞれの公園がその周辺の状況にあった公園

↓  
・市民が利用しやすい公園

\*五感で感じられる緑公園も重要視されている

#### (5) 感想及び反省

私の理想とする公園は、みんなが利用しやすく自然の中で安心してくつろぐ事のできる公園だと思った。また、どんなにお金をかけて立派な公園を作っても、利用する人がマナーを守らないと、その公園は理想的な公園とは言えなくなってしまう。利用者の一人ひとりの心がけがよければ公園もより良くなると思う。今後バリアフリーなど公園に求められる目的や機能なども変化し、多様になっていく。そのために、役所がお仕着せの公園を作るのではなく、地域の人が意見を言い合い公園を作っていけばいいのではないだろうか。

### 2. G子の研究への関わり方

#### (1) テーマ決め

G子の家のそばに、遊具を作る会社があり、はじめはブランコや滑り台などの遊具そのものに関心を持った。どのような工程で作るのか、材料は何か、金額は、依頼主はなどについて研究するつもりでいた。しかし、その会社に話を聞いてみると、実際にはその会社では作っていないそうで、関東や関西、それに中部地方の企業がそれらの遊具を作っているということだった。そこで、話し合いの末に、公園について研究する事にした。

#### (2) 資料探し・現地調査

校内では、図書室の本で、国内国外の公園について調べた。インターネットも利用したがあまりよい資料はなかったが、金沢市のホームページで緑と花の課がある事を知る。現地調査では緑と花の課の職員の方にお話を聞くことができ、いろいろな質問にも答えてもらった。また、次の機会にはいくつかの公園を廻り、事前に調べていた公園が実際にはどのようなものかをつぶさに見ると同時に、公園のあり方についての自分なりの考えももてるようになった。本人にとって貴重な経験であった。まさに、百聞は一見にしかずで、現地調査ならではの学習効果である。

### 3. 考察及び今後の課題

G子は大変まじめな性格で、几帳面に丹念に研究を進めていった。テーマ決めで少し方向転換し、研究としては間口が広がりすぎたような気もするが、本校総合学習の基本方針の一つである「結果もさることながら、経過を大切にしよう」という意味で、とても有意義であった。それは、現地調査がとても有効だったということで、彼女の場合は金沢市役所の緑と花の課の職員の方と話げた事、いくつかの公園を実際に見たことで、公園についての認識やイメージ、さらに自分の考える理想の公園など彼女の中で大きくひろげることができた。中学生段階での現地学習の有用性を、彼女の活動を通して実感した次第である。

◆H子の例

1. H子の研究内容

(1) 研究テーマ

金沢の銭湯

(2) 研究の動機

私は、今までに数回しか銭湯へ行ったことがない。お風呂が家庭に普及した今、銭湯はどのように変わっていくものなのか、消えていくものなのか興味をもった。

(3) 研究の方法

- ・学校や市立図書館で資料を探す。
- ・新聞記事や広報などから銭湯に関するものを切り抜き集める。
- ・銭湯へ行き、直接話を聞く。

(4) 研究内容の概略

①「銭湯」の分類

公衆浴場法によって、普通公衆浴場と特殊公衆浴場に分類され、銭湯は前者に該当する。また、公衆浴場の経営には保健所の許可が必要で、構造設備等の基準が石川県公衆浴場基準条例に基づいて定められている。

②衛生管理

2年サイクルで金沢市119の浴場の検査を実施している。検査内容は濁度、過マンガン酸カリウム消費量、大腸菌群の数、塩素濃度、衛生管理、照度など

③普通公衆浴場（銭湯）の入浴料金

厚生省令により、大人（12才以上）は330円

④銭湯の1日とお湯の成分・作り方（大和温泉の例）

⑤公衆浴場数の推移（金沢市保健所の資料をもとに分析）

- ・最近10年間の公衆浴場数の推移から、市内中心部の浴場数の減少、郊外型の増加が読み取れる。
- ・公衆浴場に占める普通浴場の割合は減少、特殊浴場の割合は増加している。エステやマッサージコーナーを設置した浴場が増加している。

⑥普通公衆浴場の減少への対策

- ・新聞・雑誌の発行

豆雑誌「ざぶん」（年4回）、「セントタイムズ」（定期的に発行）

銭湯とα波の関係や銭湯には健康に良いマイナスイオンが多くあることを紹介・PR

- ・銭湯に対する意識調査（アンケート）

- ・各種イベントの実施・宣伝

ショウブ湯、ワイン湯、冬至柚子湯、ハーブ湯の実施と一般新聞での宣伝

入浴キャンペーン「3回ドボーン」などの実施

- ・高齢者へのサービス

ふれあい入浴デー（65歳以上の人が百円で入浴できる日）年8回実施

65歳以上の人に、金沢市で「ふれあい入浴補助券」を発行（年18回まで百円で入浴できる）

#### (5) 活動の記録

6月14日～ 学校での文献資料収集，インターネットの利用，新聞の切り抜き

7月14日 金沢市立玉川図書館での調査

夏休み 金沢市元町保健所での資料収集

9月13日 中間発表会

9月20日～ まとめ作業

秋休み 銭湯「大和温泉」での取材，資料収集

11月 1日～ 発表会

#### (6) 感想および反省

調べていく中で，家庭のお風呂にはない銭湯の魅力を知った。銭湯は人と人とのコミュニケーションの場で，昔から現在もそれは変わらない。また，やすらぎを感じられる場所として見直してみてもはどうだろうか。発表は緊張したけど，調べてみてよかったと思う。私が大人になっても，銭湯は世の中にあるって欲しいものである。

## 2. H子の研究への関わり方

### (1) テーマ決め

テーマやその研究内容について決めかねる生徒が多い中，この生徒は自分のやりたい内容とその方法がはっきりしていた。内容は，銭湯の今と昔，銭湯経営の問題点，浴場組合の役割，銭湯の1日などであり，その方法は銭湯や組合への取材やアンケート，文献調査である。

### (2) 資料探し・現地調査

銭湯の定義などについての文献調査や金沢市公衆浴場組合発行の機関紙や冊子の資料集めは順調に進んだ。また，銭湯経営には保健所の許可が必要であることを知り，保健所に行けば公衆浴場数の推移がわかることをつかんだ。しかし，浴場組合にフィールドワークに行く計画は，学校の日時との折り合いがつかずあきらめた。6月のしょうぶ湯の広告が新聞に載っていたことから，毎日の新聞記事にも注意するように教師側からアドバイスした。

### (3) 中間発表

H子は今まで調べてきたことをわかりやすく発表できた。しかし，銭湯の取材にまだ行ってないため，写真等もなく，今ひとつ説得力に欠けるような気がした。そこで，秋休みに銭湯へ行くようにすすめたところ，秋休みに銭湯「大和温泉」へ取材にいき，写真なども撮ってきた。そのことにより，研究内容が一層充実したように思われる。

## 3. 考察及び今後の課題

市内119軒ある銭湯にアンケートを送る計画を当初もっていた。しかし，切手代金等の金銭的な面とどのくらい回収できるかという不安とから断念した。本格的にアンケートを取りたいと生徒が申し出た場合，予算面での支援をどうするのかといった問題点を感じた。また，現地調査は非常に大切であることを再認識した。学校の日課の範囲内では行きにくい場所については，H子のように夏休みや秋休みを利用しての現地調査も重要であると思われる。

## ◆ I子の例

## 1. I子の研究内容

## (1) 研究テーマ

「金沢の和菓子事情」

## (2) 研究の動機

季節毎に色や形を様々に変え、見た目や味を楽しませてくれる和菓子は、普通店で売っているものを食べたり、人からもらったりする。また和菓子は色々な行事でも使われる。このような和菓子が行われている所や原材料はどういうものを使っているのかなど、和菓子について興味を持ち、今まで知らなかったことを詳しく調べようと思い、テーマに取り上げた。

## (3) 研究の方法

- ①和菓子の製作について      ②和菓子の歴史について
- ③いろいろな和菓子について   ④和菓子の材料について
- ⑤金沢の和菓子について

以上の①～⑤の項目について、インターネット検索、文献調査、校内アンケート調査、フィールドワーク（和菓子屋訪問、インタビュー、写真撮影、図書館、菓子作り教室）等を行う。

## (4) 研究内容の概略

- ①和菓子の製作、歴史、材料、その他の和菓子、金沢の和菓子について
- ②体験（和菓子作り教室）
- ③フィールドワーク（落雁工場見学）
- ④感想・まとめ
- ⑤その他、資料等

## (5) 活動の記録（抜粋）

## 6月14日の柏樹タイム活動記録

- ・活動内容……文献調査より和菓子の名前・種類を調べる。  
インターネットで和菓子屋について調べる。
- ・反省点・次回の課題……今回は十分最後まで調べられなかったので、  
次回は今回の続きをする予定である。

## (6) 感想及び反省

職人さんも昔からずっと良い和菓子を作ろうと努力して今に至っていることがわかった。昔の人もすごく大変だっただろうが、現在にも通用しているものを作ったということはとても素晴らしいことだと思う。

これから和菓子はどうなっていくのか、私にはよくわからないが、これからの職人さんの努力と私たちの思いで、もっと良い和菓子になっていくのではないかと考えられる。今まで見たこともない材料を見たり、聞いたり、さわったりして素晴らしい体験ができたと思う。

作っているところも、ろくに見たことがなかったのですごく戸惑ったり、失敗したり、色々したが、

この教室にきた他の人とも協力しながら交流することができ、貴重な体験をすることができた。このことを通して私は、和菓子素晴らしいお菓子だと思った。

そして和菓子がもっともっと素晴らしいものになると良いと思った。まだまだ調べたいことがあったので、これからも詳しく調べて行くつもりだ。

## 2. I 子の研究への関わり方

### (1) テーマ決め

テーマは金沢に関するもので、金沢の……金沢と……といった形で必ずテーマの中に『金沢』を入れる約束で取り組み始めた。最初はいくつかのテーマがあり、決めかねていたようだが最終的には迷わずに一つのテーマに絞り込むことができたようだ。

### (2) 資料探し・現地調査

調査方法にもあるように様々な調査方法を利用し、毎回活発に活動を行っていた。和菓子屋訪問に際しては、予約の電話のかけ方を確認し、自主的に活動していった。すべての活動に関してI子は自ら進んで、意欲的に活動し、毎回の活動時間が充実したものであった。I子にとってはもっと活動時間があった方が良かったようだ。

### (3) 中間発表

未調査の部分が少し残ってはいたが、調査済みの部分は十分詳しく調べられており、短い中間発表の時間内でまとめ発表するのに苦勞をしたようである。アドバイスをした部分は、発表時に使用する機器の使用方法や設置場所、発表時に効果的に見せる方法、話し方等であった。

## 3. 考察及び今後の課題

今年度初めて3年の“総合的な学習の時間”（本校では“柏樹タイム”という）を担当した。一番難しかったのはやはり、私が担当した19人の19のテーマについての支援の在り方であったと思う。自分の考えを押しつけないように、頼らせないように、自らの考えを打ち出せるように導いていくには……と思い悩みながら進んでいくことに戸惑いながら終わってしまったようだ。また実際の活動中の生徒の様子をみていると個々の生徒が取り組む意識の違いにも常に悩み続けた。個人差はあって当然なのだが、個にあった支援ができればと思う。

テーマ選びが重要なポイントかもしれない。これに関しては、できるだけ多くの時間と資料と話し合いがなければならないし、できるだけ生徒が興味があって取り組みたいものでなければならないと考える。